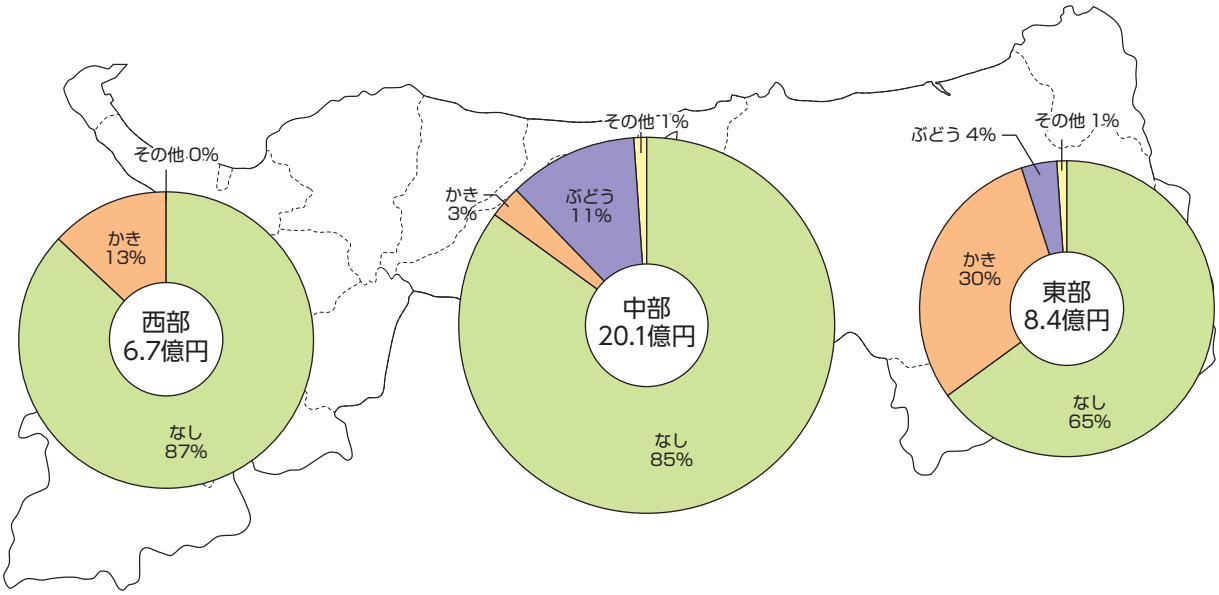
4　果物づくりのさかんなところ

①鳥取県の果物づくりの特色

鳥取県では，それぞれの土地の気候や地形などをいかして，いろいろな果物をつくっています。

鳥取県内の果物づくりのようすを地域別にはん売額で見ると，中部地区が最も多く，果物づくりがさかんなことがわかります。

鳥取県の果物は，どの地域でもなしが最も多くさいばいされていますが，その他の果物は地域によってことなります。



鳥取県の地域別に見た果物のはん売額［2022年/全農とっとり］

ひとことメモ

果物のいろいろ

果物とは，食用になる果実のことで，本来，樹に実がなるものを果物といいます。一方，スーパーや市場では，イチゴ，メロン，スイカなどの甘い実の野菜もふくめて果物としてはん売されています。

なし



「二十世紀」

県内ほぼ全域でさいばい

ぶどう



「ピオーネ」

北栄町，湯梨浜町を
中心にさいばい

かき



「西条」

八頭町，南部町を
中心にさいばい

りんご



「ふじ」

八頭町，大山町を
中心にさいばい

いちじく



「桝井ドーフィン」

北栄町，南部町で
さいばい

ブルーベリー



「ラビットアイ系」

鳥取市，大山町を
中心にさいばい

最近では，なしの「新甘泉」や「なつひめ」，かきの「輝太郎」，ぶどうの「シャインマスカット」など，味のよい新しい品種がつくられるようになり，さいばい面積も毎年ふえています。



なし
「新甘泉」



なし
「なつひめ」



かき
「輝太郎」



ぶどう
「シャインマスカット」

②クローズアップ！果物づくり

日本一の二十世紀なしの産地：鳥取県

「二十世紀なし」は，鳥取県を代表する特産物です。日本全国どこでも「なし」と言えば「鳥取県」の名前があげられるほど有名です。鳥取県に初めて二十世紀なしが植えられたのは１９０４年（明治３７年）で，鳥取市桂見の北脇 永治という人が，１０本の苗木を植えたのがはじまりです。

大きくておいしい二十世紀なしをつくるために，４月には受粉作業，５月に摘果作業を行った後，なし専用の袋を２回かけて，大切になしの実を育てます。

受粉作業は，なしづくりで最も大事な作業で，この作業を行わなければ実がなりません。なし農家の皆さんは，花が満開となるこの時期が最もいそがしくなります。

なしの実が直径１ｃｍくらいになったら，その中から一番大きくなりそうな実だけを残して他の実をはさみで切り落とし（摘果作業），残った実に小さな袋をかけます。なしの実が直径４ｃｍになると，少し大きい袋をかけて，なしの実を虫や病気から守ります。



はじめて鳥取県に植えられた
二十世紀なしの木

＜なしづくりの主な作業＞



受粉（交配）作業（４月）



摘果作業（５月）



小袋かけ作業（５月）



大袋かけ作業（６月）

砂丘地に広がるぶどう畑

鳥取県中部を流れる天神川の下流に広がる砂丘地は，川から水を引き，スプリンクラーなどで水をやるしくみがある鳥取県最大のぶどう産地です。

最近は，つぶの大きなぶどうの人気が高いため，巨峰やピオーネ，緑色で皮ごと食べることのできるシャインマスカットなどの品種のさいばいに力を入れています。

また，ビニールハウスでさいばいすることによって，温度を上げて，早くしゅうかくできるように工夫しています。



ぶどう「ピオーネ」



シャインマスカットのさいばいの様子

富有の里　南部町

鳥取県西部の南部町では，かきのさいばいがさかんです。毎年約２００トンのかきが，大阪や神戸などの大都市に出荷されるほか，タイにも輸出されています。

南部町では，特に「富有」という品種のさいばいがさかんで，「富有の里」として全国にせん伝し，楽しいかきのイベントが開かれています。



全国柿の種吹きとばし大会



かきのさいばいの様子